

採草地へのトールフェスクホクリヨウの
基幹草種としての導入

(畜試 草地部)

1. 背景とねらい

採草用の基幹品種としてオーチャードグラス主体の草地と組合せて利用することにより、刈り取りの適期幅の拡大ができて、しかもTDN含有率を中心とした栄養価の低下を防ぐことを可能とするものとして、トールフェスクホクリヨウの利用方法について検討したので、参考に供する。

2. 技術の内容

1) トールフェスクホクリヨウ導入の有利性

- (1) 1番草の出穂期は、オーチャードグラスの晩生種であるオカミドリより4-5日遅くチモシーより10日程早く、両草種の中間に位置している。
- (2) 収量性は、オーチャードグラスに匹敵し高標高地でも劣らない。
- (3) 1番草の刈り遅れに対して、ホクリヨウは1日当たりTDN含有率の低下の速度がオーチャードグラスより遅く(Or 1日当たり-0.53%、TF -0.34%)刈り遅れによって生じる養分(TDN)のロスによる飼料の質の低下を押さえることができ、オーチャードグラス主体の草地と組合せることにより、収穫期の幅が拡大される。

また、再生草についても刈り取りからの経過日数でのTDN含有率がオーチャードグラスを上回っている。

道立新得畜試の試験では、2番草、3番草のIVDMDの70%に低下する日数は刈り取り後で、オーチャードグラス 30日に対してホクリヨウは40日程度と報告されている。

- (4) 播種年の越冬性の問題では、雪腐病に対してはトールフェスクヤマナミ、ケンタッキー31フェスクより強い。

また、耐寒性は非常に強くオーチャードグラスのキタミドリに匹敵し、60年度の越冬試験では、オーチャードグラスのアオナミを凌ぐ成績を残してお

り、定着についても良好である。

- (5) 採食性については、放牧試験であるが、オーチャードグラスに劣らないという成績が出ている。(道立新得畜試)

2) 利用方法

- (1) ホクリヨウを主体とする混播で、播種基準はオーチャードグラス主体採草用に準ずる。
- (2) 適用地域 県下全域
- (3) オーチャードグラスとチモシー主体の草地と組合せて圃場を配置する。

3. 指導上の留意点

1) オーチャードグラスに比べ硝酸態チッソ含有率が1番草と特に尿の利用時に高くなるので尿の多量散布後は早刈りは避ける。

2) T D N 含有率はリグニン+ケイ酸から求めた阿部らの推定式を用いた。

4. 参考文献、資料

「北海道立新得畜産試験場年報」(56-59年度)

道立新得畜試

「新しい飼料成分分析法」

農水省畜産試験場

「主要農作物奨励品種等特性表」

岩手県

「岩手県畜産試験場試験成績概要書」(53-56, 58-59, 年度) 岩手畜試

5. 試験成績

表-1 試験期間の収量成績 (滝沢) (Kg/10a)

年次		53-55 年平均		58		59		60	
品種		生草	DM	生草	DM	生草	DM	生草	DM
TF 秋刈		548	107.3	820	135.7	579	102.0	843	147.6
Or 741		551	103.1	849	141.3	697	127.0	805	149.7
Or 秋刈		559	103.7	868	140.7	704	112.3	761	131.0

表-2 試験期間の収量成績 (外山) (Kg/10a)

年次		58		59		60	
品種		生草	DM	生草	DM	生草	DM
TF	秋刈	797	135.7	585	107.7	555	102.7
	741	699	128.1	563	103.2	379	85.8
Or	741	723	127.4	614	109.6	443	91.0
	秋刈	812	132.1	509	99.9	452	90.8
	741	704	123.8	525	101.8	493	97.1
Ti	秋刈	550	108.9	371	94.8	376	93.8

表-3 試験期間の収量成績 (Kg/10a)

年次		58		59		60	
試験地	品種	生草	DM	生草	DM	生草	DM
江刺	TF 秋刈	1093	207.9	773	137.8	743	136.2
	Or 741	908	173	730	124.2	763	143.2
軽米	TF 秋刈	1068	197.2	783	136.2	991	177.8
	Or 741	938	161.9	710	114.7	868	159.6

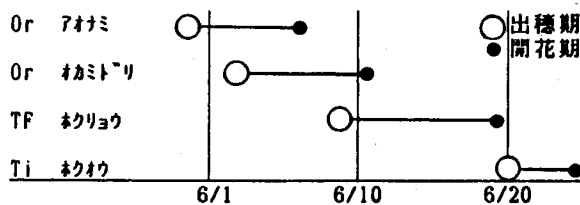
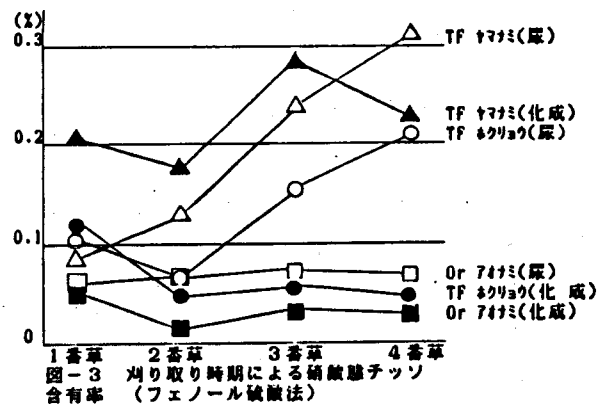


図-1 トールフェスクホクリヨウと他の草種の出穂期、開花期 (平年)

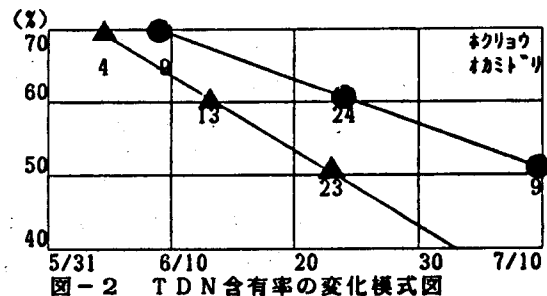


表-4 点播による越冬率(%)

播種月日	8/20	9/1	9/10
品種			
TF 秋刈	95	93	84
Or 741	100	96	88
秋刈	92	55	35

注) 播種年59年
調査 60年
5月
10cm間隔
100個体2
反復